

ジーエルサイエンス株式会社 平成17年3月期 決算説明会

営業本部

第38期(平成17年3月期)の分析機器事業部門の当初売上計画は12,000,000千円(120億円)であり、実績は12,512,756千円(海外部含む)となり計画達成率は104.3%でした。また、売上総利益は4,280,903千円で計画達成率は108.2%、営業利益は1,192,350千円で計画達成率135.2%となりました。

1. 第38期売上計画・利益計画達成概況について

・ 環境プロジェクトX 積極プロモーションの成果

平成15年5月交付、16年4月施行、厚生労働省令第百一号「水道水質基準に関する改定」に関連して、水質分析関連装置の大ヒット(AQUA PT 5000J/AQUAauto70 89台販売 計画達成率127%、アクアトレース ASPE699 95台販売 計画達成率119% 当該製品分類販売総額1,113,625千円) 売上構成比8.9%

・ 当社最優良利益製品群の安定的販売 イナートファミリー

当社のオリジナル開発製品群のブランド製品である、イナートファミリーと称される液クロ分離カラムイナートシル、ガスクロ分離カラムイナートキャップ、試料前処理製品イナートセップの普及浸透 当該製品分類販売総額2,410,257千円 前期比9.4%UP 売上構成比19.3%

・ 当社自社製造装置の堅実な販売

ガスクロマトグラフ(前期比2.1%UP) GC周辺装置(前期比2.1%DOWN) 自社LC装置群(前期比66.6%UP) システム装置関連(前期比13.6%DOWN) 合計販売総額約1,424,843千円 売上構成比11.4%

2. 第38期主力製品群の動向と39期の販売プロモーション

《高利益付加価値製品群》

当社が世界に誇る“イナートファミリー”

LC(液体クロマトグラフ)充填カラム イナートシル、GC(ガスクロマトグラフ)キャピラリーカラム イナートキャップ、試料濃縮用固相カートリッジ イナートセップ

第37期にラインナップが完成した高付加価値製品群のイナートファミリーが極めて順調にその生産、販売高を伸ばしております。これらの製品群は当社の登録商標である「イナート」のイメージを継承発展させ、既に国外でも一定のシェアを有するイナートシルに次ぐ大きな柱に育て上げてまいります。

先行製品となりますイナートシルは国外販売数対国内販売数割合が70:30となっており圧倒的に海外での販売数が国内を上回り、当社が世界に誇れる代表的な製品となっております

ます。第 38 期実績は国外国内それぞれ前年度比 21.1、10.4%の販売増となっており、39 期も引き続き強力な年間プロモーションを実施してまいります。

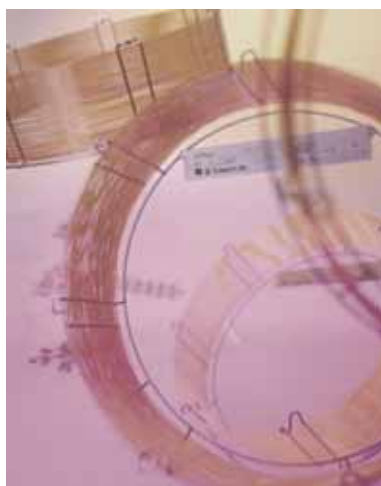
イナートキャップはGCキャピラリーカラムとしては唯一国産化に成功し、当社創業以来圧倒的な高シェアを維持してまいりましたガスクロマトグラフ使用消耗品に、全くの新風を吹き込み、停滞気味の同市場に活性を促す絶好のアイテムと言えます。しかしながら 38 期実績はユーザー数の膠着状況下にて他の同種消耗品群（45 分類中 2 分類）同様わずかな減少傾向にあり、前年度比 3.8% DOW AN となっております。39 期は製品ラインナップの充実、海外市場への再アタック等にて上昇傾向を目指します。

反面、海外製品に席卷されておりました試料前処理固相カートリッジ[®]の中で当社オリジナル製品のイナートセップは第 38 期上期に期待以上の実績となり、前期出荷数約 20 倍の生産実績を記録し、年間においても前期比 74.1%増の生産、販売となっております。その生産増の背景には、前述の厚生労働省令第百一号「水道水質基準に関する改定」があり、その分析法改定をターゲットに細心のアプローチを実施してきた環境プロジェクトX活動が奏功したといえます。この勢いは継続するものと思われ、39 期もブランド浸透も含め主力製品となっていきます。

イナートファミリー



INERTSIL[®]



INERTCAP[™]



INERTSEP[™]

《環境プロジェクトX主導による重要アイテム》

2004 新水質基準施行に準拠した水質 VOC(揮発性有機化合物)・かび臭気分析用

試料濃縮導入装置 AQUA PT 5000J、HS7000/7050

AQUA PT 5000 J 及びオートサンプラーは水質分析システム装置の前処理装置として最大需要期は過ぎたとはいえ、安定的な販売貢献の期待が大きい我が社随一のヒット製品となっております。37 期も 2004 年水質基準改定・リプレース需要等に支えられ対前年度比 35%を超える実績を樹立いたしました。しかも、その好調を維持し第 38 期首に受注残及び引き合い数は約 60 件を越え年間販売計画台数の 70 台に届く勢いにありその結果 38 期実績が 89 台という大量の販売につながっていききました。

(平均販売価格 ¥5,500,000)

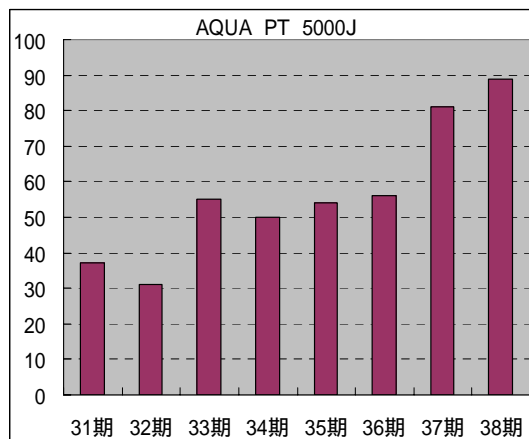
39 期においてはここ 2 カ年の勢いは沈静化しますが、通常年度の 40%アップの 70 台(販

売総額 ¥ 445,000 千円) を計画しております。

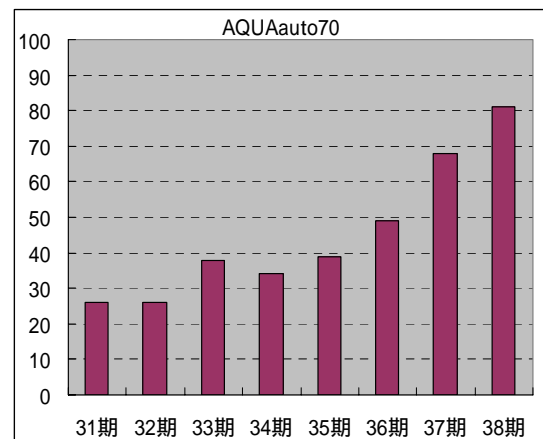
同様にここ数年わずかながら減少を余儀なくされたヘッドスペース(気相)試料導入装置 7000/7000HT/7050 も水質基準改定に対応可能な装置として第 38 期実績も堅実に推移し、第 39 期においては待望の新型装置の導入も可能となり、販売目標台数も導入効果を期待し近年最高の 30 台を計画し、水質分析に加え食品市場等の新市場攻略に注力いたします。)



AQUA PT 5000J + AQUAauto70



TEKMAR 7000/7050



2004 新水質基準施行に準拠した固相自動抽出装置 アクアトレース 699

前述装置同様 2004.4.1 施行の新水質基準において、農薬を中心に固相前処理装置として第 37 期驚異的な伸びを示し年間最大ヒット製品と言っても過言とはいえない当社オリジナル最重要アイテムとなりました。

特に、今般の基準改定においては分析精度の向上、有害溶剤の使用量削減等が盛り込まれその主旨に十分合致する装置として引き続き第 38 期も活況を維持する強力なプロモーションを展開し、過去最大の販売実績 95 台を達成いたしました。

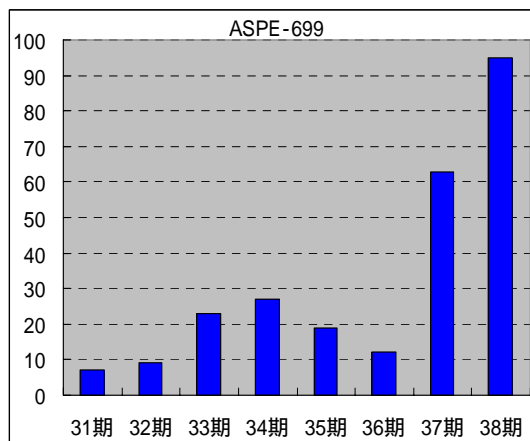
38 期上期時点での実績の 59 台から推測した、17 年 3 月期通期予測台数 90 台をも上回る好結果となりました。

(平均販売価格 ¥ 4,400,000)

39 期は通常年度のほぼ 4 倍程度の 45 台を計画しています。導入先送りユーザー、リピートユーザーへの攻略が不可欠となります。



アクトレス ASPЕ-699



アクトレス年度別販売台数グラフ

室内大気(シックハウス症候群成分)捕集用 SP208 シリーズ

36 期に大ブレイクがあり翌年となる第 37 期、そのピークは過ぎたとも推定される SP208 がシリーズ化され、新型 10L ポンプの新規展開、タイアップ品の AERO(アィロ)カートリッジなど話題性・優位性は豊富で、38 期は計画達成 94.8%の堅実な販売になりました。

第 39 期販売計画台数は市場の動向を鑑み堅実な数字の 200 台とし、大気分析市場にアプローチしていき、十分に計画達成するものと思われます。

(平均販売価格 ¥ 250,000)

・室内大気捕集用 SP208 シリーズ



SP-208 1000L



SP-208 10L

《バイオプロジェクト第 38 期動向に関連し》

試料前処理ロボット MICROLAB(ハミルトン社)

第 38 期実績は 5 台の数字となり 37 期実績とほぼ同数となっています。ただ計画台数は 10 台としており、同製品の国内総販売代理店としてまたバイオ市場への重要な販売アイテムとしては未達成感が残り、第 39 期の巻き返しに大きな期待を寄せております。

第 39 期販売計画台数は有力な商談の多さから 15 台としており、バイオ関連市場への主力製品に相応する実績を目指しております。

(平均販売価格 ¥ 15,000,000)



MICROLAB STAR



Dynamic Positioning System(DPS)

オンライン固相抽出装置 SYMBIOSIS(シムバイオシス)バイオ向け、環境向け

従来機のプロスペクトより、第 37 期において新型装置 SYMBIOSIS(シムバイオシス)となり、新型 2 年目の販売活動を展開してまいりました。

38 期に続き 39 期においても本来のバイオ向けに加え、環境用システムにおいては前記しました 2004 水質基準改定施行も追い風となり引合い数が徐々に増えてきており、第 39 期計画台数の 10 台達成の具体的プロモーションが展開されております。38 期実績はバイオ向け 3 台、環境向け 1 台にとどまりましたが、39 期においてはバイオ、環境ユーザー共に活発な引き合いがあり、商談成立に向け積極的な営業活動を展開していきます。

(平均販売価格 ¥ 6,000,000)



SYMBIOSIS(シムバイオシス)環境向け



SYMBIOSIS(シムバイオシス)医薬向け

キャピラリーLC用微量流量ポンプおよびキャピラリーHPLC(高性能液体クロマトグラフ)

キャピラリーLC用微量流量ポンプ MP710、MP711 は、第 38 期計画台数は 25 台でしたが、年間実績はキャピラリーHPLC との合算にて 15 台にとどまりました。

(平均販売価格 ¥ 1,800,000)

第 39 期は、このポンプを中心にセットアップしたポストゲノム研究分野におけるタンパク質解析、アミノ酸分析等に有用なキャピラリーHPLC(ハイパフォーマンス液体クロマトグラフ)AccuStream(アキュストリーム)装置の拡販を推進し 30 台の計画台数といたしました。本装置は待望久しいバイオ市場向け純粋自社製造装置となりますので積極的に販売プロモーションを実施し、計画達成を目指します。

(平均販売価格 ¥ 14,000,000)



キャピラリー HPLC システム

微量流量ポンプ

キャピラリーHPLC(ハイパフォーマンス液体クロマトグラフ)AccuStream(アキュストリーム)の特徴

- ・ はん用 HPLC(溶媒流量 1ml/min 程度)に比べ溶媒使用量が 1/50 ~ 1/100 程度と少なく、安全性・経済性に優れております。
- ・ キャピラリー(毛細管)分離カラムを使用することで高分離が可能となり、微量分析に最適。

《第39期に向けての主力製品群》

新型ガスクロマトグラフ、新型液体クロマトグラフ

新型ガスクロマトグラフ GC-4000 シリーズ及び新型液体クロマトグラフ GL-7400 シリーズがそろって38期下期から発売開始となりました。いずれも当社の開発製品群の中で根幹となる製品でありますので39期の拡販に大きな期待が寄せられております。

それぞれ、計画台数を230台、150台と設定し、計画達成をめざし全国の営業の総力結集をすすめてまいります。



GC-4000 シリーズ



GL-7400 シリーズ

トランスPCB用自動クリーンアップ装置 PAC 795・795M

平成13年にPCB特措法が施行され、PCB廃棄物の期間内処理義務（平成28年7月まで）が保管事業者課せられました。合わせて拠点施設の整備及び処理事業の実施、中小企業の処理費用負担軽減のための基金など全国的な処理体制構築が進んでおります。

全国の事業者保管された膨大な大小変圧器（トランス）、コンデンサー類の中にも含まれるPCB測定用の試料前処理装置として、トランスPCB用自動クリーンアップ装置を39期計画台数を10台とし、年間プロモーションを展開していきます。

（平均販売価格 ¥5,000,000）



トランスPCB用自動クリーンアップ装置 PAC 795

以上